

未来をつくる

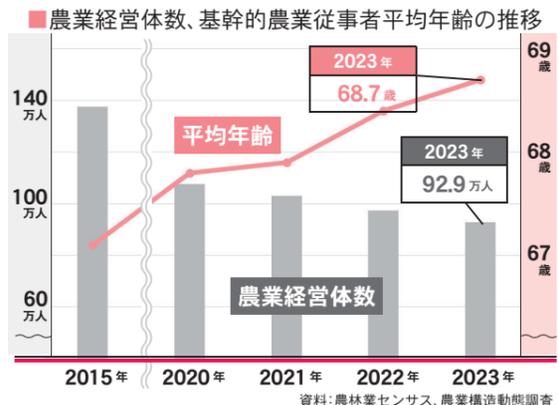
スマート農業

農業の担い手不足や少子高齢化を背景に、AIやロボット、ICTを用いたスマート農業が注目を集めています。GPSやAIを駆使したスマート機器、ほ場管理システムや農業用ドローンなどを導入している市内の農業者を紹介します。



加速する農業の担い手不足 課題の解決策は

農業は現在、「将来的な担い手不足」という課題を抱えています。農林水産省の農業構造動態調査などによると、個人農家や法人などの「農業経営体」の数は年々減少しています。また、個人で農業を主な仕事にする「基幹的農業従事者」の数は60歳以上の割合が約8割で、高齢化が進んでいる状況にあります。



このままでは、農業の担い手は2050年までに現在の約3分の1まで減少することも見込まれており、将来的に、少ない人手で今と同じ生産量を維持していくのは困難となります。

未来を切り開く スマート農業の取り組み

この対策として全国で進められているのが、AIやロボットなど最先端テクノロジーを取り入れた「スマート農業」です。

市内でも、農薬や肥料を散布するドローンや自動走行が可能なトラクターなどの農業機械、水田の水管管理をスマートフォン一つでできるシステムなどが導入され、活躍しています。また、登米総合産業高校では、スマート農業の実践的な教育を進めているほか、市では市民向けのセミナーを開催し、普及啓発に取り組んでいます。

農業の効率化や品質向上を実現し、持続可能な農業の明るい未来を切り開く「スマート農業」の取り組みについて、紹介します。